

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103－102	高等学校	地理歴史	日本史探究	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	日探 703	精選日本史探究 今につながる未来をえがく		

1. 編修の基本方針

- 2条の目標を達成するため、次の通り編修した。
- ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、社会史などの歴史学の新しい研究成果をとりいれ、さまざまな視点から日本史学習をより深めることができるコラム「トピック」や特設ページ「歴史のなかの動物」「地域にフォーカス」を設けた（第1号）。
 - ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページに、資料から単元の主題を考える導入の問い、資料を読み解き学習意欲を高める「読み解きのツボ」「資料を読みとろう」、学んだことを活用して考え、表現する「TRY」など、さまざまな問いを段階的に設定し、日本の歴史を主体的かつ多面的・多角的に考察・構想・議論することができるよう工夫した。さらに、本文ページで学んだ知識を活用し、諸資料を使って多面的・多角的に考察する特設ページ「〇〇のはたらく・あそぶ・たたかう・つながる」を設けた（第2号）。
 - ・正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、歴史学習を通して、よりよい社会の実現に向けて生徒が課題を展望することができるよう、地域社会や身の回りの事象を歴史と関連させながら考察できる特設ページ「わたしたちの課題を探してみよう」を設けた。また、本文ページとともにコラム・特設ページを通じて、女性の政治参加を求める動きや社会的地位の変化を考察できるよう工夫した（第3号）。
 - ・生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、産業の発達にともなう環境問題の発生やその克服に向けた取り組みについて歴史的な視点から取り上げ、問いを活用して現代社会とのつながりや共通点・相違点を考察・議論することができるよう工夫した。また後見返し裏「日本の世界遺産」のなかで日本の自然遺産を取り上げた（第4号）。
 - ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う観点から、世界と日本の結びつきに注目させるコラム「Link 世界と日本」を設けた。また、後見返し裏「日本の世界遺産」で日本の文化遺産を取り上げた（第5号）。

2. 対照表

図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
前見返し	・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、日本の旧国名を現在の県名と照らし合わせて確認できるよう図表にして取り上げた（第1号）。	前見返し 1～2

第1章	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、多様な角度から日本史学習を深めることができる特設ページを設けた（第1号） ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、本文ページで学んだ知識を活用し、諸資料を使って多面的・多角的に考察する特設ページを設けた（第2号）。 ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、古墳時代の外国との文化交流について記述した（第5号）。 	<p>p. 24～25,</p> <p>p. 14～15</p> <p>p. 22～23</p>
第2章	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、多様な角度から日本史学習を深めることができる特設ページを設けた（第1号） ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、本文ページで学んだ知識を活用し、諸資料を使って多面的・多角的に考察する特設ページを設けた（第2号）。 ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、奈良時代の文化や外国との文化交流について記述した（第5号）。 	<p>p. 44～45</p> <p>p. 36～37</p> <p>p. 32～33</p>
第3章	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、多様な角度から日本史学習を深めることができる特設ページを設けた（第1号） ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、本文ページで学んだ知識を活用し、諸資料を使って多面的・多角的に考察する特設ページを設けた（第2号）。 ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、日宋・日元交流について記述した（第5号）。 	<p>p. 70～71</p> <p>p. 62～63</p> <p>p. 68～69</p>
第4章	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、多様な角度から日本史学習を深めることができる特設ページを設けた（第1号） ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、本文ページで学んだ知識を活用し、諸資料を使って多面的・多角的に考察する特設ページを設けた（第2号）。 ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、琉球・北方の動向について記述した（第5号）。 	<p>p. 88～89</p> <p>p. 82～83</p> <p>p. 79</p>
第5章	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、多様な角度から日本史学習を深めることができるコラムを設けた（第1号） ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、本文ページで学んだ知識を活用し、諸資料を使って多面的・多角的に考察する特設ページを設けた（第2号）。 ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、戦 	<p>p. 99, 100, 103, 107, 110, 111</p> <p>p. 112～113</p> <p>p. 98～99</p>

	国時代から安土桃山時代にかけての南蛮貿易や南蛮文化について記述した（第5号）。	
第6章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、多様な角度から日本史学習を深めることができる特設ページを設けた（第1号） 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、本文ページで学んだ知識を活用し、諸資料を使って多面的・多角的に考察する特設ページを設けた（第2号）。 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、江戸時代後期の学問・文化について記述した（第5号）。 	<p>p. 126～127, 134～137</p> <p>p. 120～121</p> <p>p. 130～131</p>
第7章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、多様な角度から日本史学習を深めることができるコラムを設けた（第1号） 男女の平等を重んずる態度を養う観点から、自由民権運動と女性の関わりについても取り上げた（第3号）。 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、日本に欧米の文化が取り入れられてどのような変化がおこったのかについて記述した（第5号）。 	<p>p. 147, 149, 151</p> <p>p. 159</p> <p>p. 150～151</p>
第8章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、多様な角度から日本史学習を深めることができる特設ページを設けた（第1号） 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、本文ページで学んだ知識を活用し、諸資料を使って多面的・多角的に考察する特設ページを設けた（第2号）。 男女の平等を重んずる態度を養う観点から、大正期における女性たちの新しい言論活動や文化について記述した（第3号）。 公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、産業革命による工業化の進展が、現代にも通じる地域間格差や環境問題の出発点になったことに気づかせるようにした（第4号）。 	<p>p. 184～185</p> <p>p. 178～179</p> <p>p. 181</p> <p>p. 171</p>
第9章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、多様な角度から日本史学習を深めることができる特設ページを設けた（第1号）。 男女の平等を重んずる態度を養う観点から、戦時下の女性についての記述をコラムで取り上げた（第3号）。 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養う観点から、1930年代の都市文化などについて記述した（第5号）。 	<p>p. 198～199</p> <p>p. 190</p> <p>p. 190～191</p>
第10章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、多様な角度から日本史学習を深めることができる特設ページを設けた（第1号） 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、本文ページで学んだ知識を活用し、諸資料を使って多面的・多角的に考察する特設 	<p>p. 216～217</p> <p>p. 206～207</p>

	<p>ページを設けた（第2号）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女の平等を重んずる態度を養う観点から、女性参政権の実現と女性議員の誕生、職場における女性の活動やはたらき方の変化などを本文やコラムで取り上げた（第3号）。 ・自主及び自律の精神を養う態度や、正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、諸資料をもとに、自分の身の回りの問題や地域社会の様々な問題について主体的かつ多面的・多角的に考察する特集ページを設けた（第2号、第3号）。 ・生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、高度経済成長期の公害問題とその対策としての環境庁の設置などを記述した（第4号）。 	<p>p. 201, 203, 215</p> <p>p. 226～229</p> <p>p. 211</p>
後見返し	<ul style="list-style-type: none"> ・自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うとともに、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養う観点から、「日本の世界遺産」を日本地図のなかで概観した（第4・5号）。 ・他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う観点から、現在の世界地図を掲載した（第5号）。 	<p>後見返し 4</p> <p>後見返し 5～6</p>

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・学校教育法第五十一条三項（社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと。）に即して、本文記述や特集など教科書全体を通じて、国際社会に生きる高校生が日本の歴史を世界の歴史と関連付けながら理解し、現代社会が抱える課題についても考察することができるよう配慮した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-102	高等学校	地理歴史	日本史探究	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	日探 703	精選日本史探究 今につながる未来をえがく		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

生徒が興味・関心を持ちつつ、日本の歴史を世界の歴史と関連付け、資料を活用しながら考察し、現代の日本の諸課題とその展望を探究する力を無理なく養うことができるように、以下の点について配慮した。

- 1) 生徒が世界とその中の日本を広く相互的視野から捉えることができるよう、各編の扉に、その編であつかう時代の概観した文章や世界地図、年表などを置き、日本の歴史を世界の動きと関連付けながら学習できるようにした。また、世界と日本の結びつきに注目させるコラム「Link 世界と日本」や、世界と日本を比較・関連付けられるような問いを随所に設けた。
- 2) 「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を身に付ける学習が一体となって展開できるよう、全編にわたって課題（問い）を設定するなど配慮し、特に本節（見開き2ページ）では以下のように学習上の課題を段階的に設定した。
 - ①冒頭の問い（気づきの問い）
 - …資料を読み取ることにより、生徒自身が疑問をもったり仮説を立てて学習に入るための問い。
 - ②節タイトル下の問い（学習課題となる問い）
 - …その節で扱われる歴史の推移や展開を生徒が考察し、理解するための問い。
 - ③末尾の問い「TRY」（学習のまとめとなる問い）
 - …その節で学んだことをふまえ、比較・関連付けや歴史的意義、現在とのつながりなどの観点から、生徒が自身の考えをまとめたり表現したりするなどして、より深い理解に至るための問い。
 - ④「読み解きのツボ」「資料を読みとろう」（資料を活用する問い）
 - …資料を読み取る際のヒントや着眼点を示したり、簡単な問いを設定するなどして、資料活用を促すための問い。
- 3) 本文ページで習得した知識をふまえて、生徒が諸資料を活用しながら多面的・多角的に考察し、自分の考えをまとめたり表現したりする特設ページ「〇〇のはたらく・あそぶ・たたかう・つながる」を各編に設けた。
- 4) A～Dの中項目1では、時代の展開をふまえて生徒が自身の「時代を通観する問い」を表現することができるよう、本節中に記入欄を設けた。
- 5) A～Dの中項目2では、諸資料からその時代の特色を多面的・多角的に考察するとともに、生徒が自身で時代の特色について「仮説」を表現し、その後の学習への展望をもつことができるよう、記入欄を設けた。

- 6) D の中項目（４）では生徒の生活や地域社会との関わりを観点に主題を設定し、諸資料をもとに、現代の日本の抱える課題の形成に関わる歴史を多面的・多角的に考察すると同時に、よりよい社会の実現を視野に主体的に探究しようとする態度を養えるよう工夫した。
- 7) 各単元に①社会・人々、②世界のなかの人々、③伝統・文化の項目による「観点別インデックス」を設け、Dの中項目（４）をこれまで学習した内容のまとめとして一層活用できるよう工夫した。
- 8) 多様な視点から日本史学習を深め、生徒の興味・関心を高められるよう、生徒にとって身近な存在である動物や、地域の歴史を取り扱った「歴史のなかの動物」「地域にフォーカス」を設けた。これらには諸資料のほか、主題を明確にする問い（冒頭の記事）、まとめの問いを設け、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を身に付ける学習が一体となって展開されるよう配慮した。
- 9) 歴史が現代的な諸課題の形成に深く、直接的に関わっていることを認識できるよう、コラム「Link 歴史と現在」を設けた。
- 10) 歴史における著名な人物を取り上げ、歴史上に果たした意義や興味深いエピソードを記述したコラム「ひと」を随所に設けた。
- 11) 本文を理解するうえで重要な歴史用語については、「用語説明」でコンパクトにわかりやすく解説した。
- 12) 全編にわたってキャラクターを活用し、生徒の興味・関心を高めるとともに、生徒が自ら考察、構想する補助とした。
- 13) 近代国家の形成期に、我が国の領土がロシアなどとの間で国際的に確定されたこと、また我が国が国際法上正当な根拠に基づき竹島、尖閣諸島を正式に領土に編入した歴史的経緯について取り上げた。
- 14) 近現代史上の主要な出来事がどの内閣のときに発生したかを確認するため、巻末特集「歴代内閣のあゆみ」を設け、時間的な流れを理解しやすくした。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第1章 国家と文化の形成	A 原始・古代の日本と東アジア		5
第2章 古代国家の確立	(1) 黎明期の日本列島と歴史的環境	p. 6～17	10
	(2) 歴史資料と原始・古代の展望	p. 18～19	
	(3) 古代の国家・社会の展望と画期	p. 20～47	

第3章 中世社会の成立	B 中世の日本と世界 (1) 中世への転換と歴史的環境 (2) 歴史資料と中世の展望 (3) 中世の国家・社会の展望と画期	p. 48～55	9
第4章 中世社会の展開		p. 56～57 p. 58～93	9
第5章 統一政権の成立	C 近世の日本と世界 (1) 近世への転換と歴史的環境 (2) 歴史資料と近世の展望 (3) 近世の国家・社会の展望と画期	p. 94～103	8
第6章 幕藩体制の展開		p. 104～105 p. 106～139	10
第7章 大日本帝国の展開	D 近現代の地域・日本と世界 (1) 近代への転換と歴史的環境 (2) 歴史資料と近代の展望 (3) 近現代の地域・日本と世界の画期と構造 (4) 現代の日本の課題の探究	p. 140～153	10
第8章 大日本帝国とデモクラシー		p. 154～155 p. 156～225	9
第9章 アジアの戦争と第二次世界大戦		p. 226～229	7
第10章 現代日本社会の形成と展開			13
		計	90